

ME)による認証評価の受審が決まっております。昨年度は認証評価のための自己点検評価書の草案をご作成いただきました。今回は、自己点検評価書を再検証し、さらに熊大は個々の評価基準を満たしているのか、不足しているのはなにかを議論いただきました。

学外講師として国際医療福祉大学医学部長の北村聖先生をお招きました。先生はJACMEの基準・要項検討委員会委員長として認証評価基準の作成・改訂で中心的役割を担われ、また各大学の認証評価において主査として実地調査を統括しております。先生には医学教育認証制度の概略と受審することの意義についてご講義いただき、さらにはグループワークのタスクフォースとして議論にご参加いただき、国際基準に照らした熊本大学の医学教育についてご指導をいただきました。

自己点検評価書の見直しを通して、本学の医学教育の特筆すべき特徴と改善を要する点が浮き彫りとなり、さらなる改善への糸口となったのではと考えられます。

今回の医学教育ワークショップで交わされました議論が、本学の医学教育を改善し、優れた医師の育成として社会貢献につながるものと確信しています。最後ではありますが、FD企画に尽力いただきました臨床医学教育研究センター 古川准教授、大変ご多用の中、本ワークショップに参加していただきました教職員、研修医、学生の皆様に感謝申し上げます。

ますとともに、御支援をいただきました。肥後医育振興会に御礼申し上げます。

### 第十七回警察歯科医会全国大会

一般社団法人 熊本県歯科医師会

会長 浦田 健二

第十七回警察歯科医会全国大会が八月二十五日(土)午後一時からホテル日航熊本にて、大会のテーマ「熊本地震から繋ぐ」支援活動と警察歯科のあり方」と題し、熊本地震で何を経験し何が必要であったのかを今一度振り返り、大規模災害に直面したときの歯科支援活動と身元確認のあり方を検証していきたいとして開催された。主催者である日本歯科医師会をはじめ、全国の警察関係者、警察歯科医、歯科医師及び大規模災害に携わる四四五人が参加した。

伊藤県歯副会長の開会、浦田県歯会長、柳川日歯副会長の挨拶があり、阿波警察庁刑事局捜査第一課検視指導室長、小野県副知事、植松副市長、小山県警本部長の祝辞があった。

特別講演では西谷熊本大学法医学分野教授を座長に出羽厚二岩手医科大学法医学講座教授より「大規模災害に対する実践的な準備とは―何を想定し、何を備蓄し、どう訓練し、どう行動するのか?」と題して講演があった。

熊本地震報告では渡辺県歯副会長から熊本地震における熊本県歯科医師会と熊本県歯科衛生士会の避難所における被災

者への支援活動内容の報告と、支援活動のビデオ上映があり、震災当時を思い出し涙ぐむ方もおられた。田中県警本科学捜査研究所所長からは、熊本地震における死亡者に対する身元確認作業について、当時の県警検視官としてのお立場での報告があった。

シンポジウムでは中村九州大学教授と佐藤日歯副会長を座長に、柳川日歯副会長、工藤福島県歯常務理事、中久木東京医科大学顎顔面外科分野助教、牛島県歯専務理事の四人がシンポジストとして発表された。小島県歯副会長の閉会で講演会は終了となった。

その後のポスターセッションでは身元確認関連・訓練、研修関連・情報、ツール関連・熊本地震等関連の四グループに分かれて二二題が発表された。

全国で災害が多発している中、熊本地震での経験を全国の関係者につなぐことで、より質の高い被災者支援と、身元確認活動が行えるようになることが望まれる。

### 第五十二回日本実験動物技術者協会総会の開催を終えて

熊本大学大学院生命科学研究所 生体微細構築学分野 助教 野口 和浩

平成三十年十月四日(木)〜六日(土)の三日間、市民会館シアーズホール夢ホールおよび熊本市国際交流会館を会場として、「第五十二回日本実験動物

技術者協会総会熊本大会2018」を開催致しました。

日本実験動物技術者協会は、「実験動物技術者の知識・技術および資質の向上と医学・薬学等の分野における実験動物科学の学術的発展に寄与する」ことを目的として、一九六六年に発足した学術団体です。その中で、本総会は様々な分野に所属する実験動物に関わる技術者および研究者が年に一度全国から集いシンポジウム等を通じて自己研鑽や情報交換などを行う貴重な大会として位置づけられており、今回初めて熊本での開催となりました。

本大会のメインテーマは、「3R (Refinement (福祉)、Reduction (削減)、Replacement (代替))の実践」技術者の視点から」として行われました。これは、平成二十四年の動物愛護管理法の見直しの際に参議院の環境委員会において「動物福祉の更なる推進が大きな課題である」との附帯決議が付けられましたので、テーマの中心に動物福祉、すなわち3Rを据えて、一般演題も職場で取り組まれている3Rに基づく創意工夫を中心に幅広く募集することに致しました。その結果、一般演題は一〇一題の応募があり、さらに特別講演一題、シンポジウム四題、教育講演一題、実験動物トピックス一題、教育セミナー三題、また環境研究会セミナー、サテライトセミナーおよびランチョンセミナーなど、充実した内容を企画したところ、全国より約七百名の方にご参加頂くことができました。